

子どもたちの明るい未来のために

日立市立小・中学校PTA連合会



広報誌 第三十八号 情報委員会

～ も く じ ～

- (1) 表紙 がんばれ！ひたちPTA
- (2) 会長挨拶
- (3) 生涯学習委員会報告
- (4) 未来委員会報告
- (5) 情報委員会報告
- (6) 母親委員会報告
- (7) 日P全国大会ひろしま大会参加報告
日P関東ブロック大会長野大会参加報告
- (8～9) 特集 PTAの震災復興の取り組み
- (10) 寄稿「PTAと子どもたち」
日立市教育振興大会発表報告



- ① エールを届けよう！（久慈小学校）
- ② 石碑の復旧工事（大沼小学校）
- ③ プレハブの仮校舎（水木小学校）

平成23年度 日立市立小・中学校PTA連合会スローガン

ひかりかがやき たくましく ちからあふれる
 ひたちっ子を育むために
 集おう 交流と協働のプラットホームへ

つながることの大切さ

日立市立小・中学校PTA連合会

会長 茂野 勝雄



未曾有の大災害となった東日本大震災からまもなく一年が過ぎようとしています。この度の震災で被災されたPTA会員の皆様には、心よりお見舞いを申し上げます。また県内外から本市に避難を余儀なくされている保護者や児童・生徒のみなさんは、ふるさとへの想いや今の生活、さらにはこれからのことなど考えには枚挙にいとまがなく、その心境は察するに余りあるところです。この大震災は日立市内にも大きな被害を与え、私たちの心にも大きな傷跡を残しました。また、福島第一原子力発電所事故の影響による事象については、今後長く困難な道のりが想像されます。

さて、この東日本大震災は私たちにたいへんな苦境を与えました。しかし、皮肉なことに私たちの心に忘れかけていた大切なものを呼び起こすきっかけにもなりました。

それは「絆」や「つながることの大切さ」です。成熟し価値観の多様化した現代社会においては「他人に影響されない、影響しない」といった個人主義を唱えるのが美学のように讃えられ、帰属意識や仲間意識といったものが希薄になり、協調性や連帯感や団結心といった人と人との結びつきの大切さを失ってしまったように感じます。

私たちは同じ時代と同じ年代の子どもをもち、それが縁で関わり、つながることができている仲間たちです。決して一人でPTA活動を進めることはできません。そんな会員みんなの共通の願いは「子どもたちのすこやかな成長」でしょう。その願いを達成するために、私たちは学校や地域はもとより関係団体とつながりを深め合い、その活動等を通じてお互いを高め合い成長しながら、次代を担う子どもたちが夢や希望をもち安心と信頼がもてる『みらい』を築いていきましょう。



笑顔で挨拶をする茂野会長



役員・常任委員・幹事局



市P連メンバー全員集合

市 P 連 事 業 報 告

- | | | |
|--------------------|--------------------|--------------------|
| ○ 5月 7日 平成23年度定期総会 | ○ 11月 2日 第2回単P会長会議 | <今後の予定> |
| ○ 5月17日 第1回役員会 | ○ 11月 8日 第3回常任委員会 | ○ 3月 6日 第5回常任委員会 |
| ○ 6月 7日 第1回常任委員会 | ○ 11月23日 日立市教育講演会 | ○ 4月10日 第7回役員会 |
| ○ 6月18日 第1回単P会長会議 | ○ 1月17日 第5回役員会 | ○ 4月17日 第6回常任委員会 |
| ○ 6月28日 第2回役員会 | ○ 1月24日 第4回常任委員会 | ○ 5月12日 平成24年度定期総会 |
| ○ 9月 6日 第3回役員会 | ○ 2月22日 第3回単P会長会議 | |
| ○ 9月13日 第2回常任委員会 | ○ 2月28日 第6回役員会 | |
| ○ 10月25日 第4回役員会 | | |

生涯学習委員会報告

委員長 石川 清次



今年度、生涯学習委員会は、「保護者力の向上」をテーマに活動してまいりました。

具体的な活動としては、宇都宮市PTA連合会で平成十六年より取り組まれている「親の振り返りカード」を利用して、私たち保護者自身が「自分の現状への気づき」を得られるような情報の投げかけです。

第一回単P会長会議で、「親の振り返りカード」を皆様へご紹介した後、単Pでどのように活用していただくか、委員会で検討を続けてまいりました。

その結果として、第二回単P会長会議では、「親の振り返りカード」の生みの親である宇都宮市PTA連合会の福田智恵様を講師にお招きして、「今、PTAに求められること」親の振り返りとは？」をテーマに講演会を実施いたしました。今や宇都宮市内の小中学校全校で取り組んでいる活動の導入に

至る経緯や、やってみてわかったこと、今後の展望などをご講演いただきました。

また、第二回単P会長会議では、市P連の原田実能顧問に「温故知新〜日立市P連の組織づくりの歴史〜」をテーマにご講演をいただき、「単Pを支える市P連⇄市P連を支える単P」においての単P会長としての役割と意味を再確認しました。

第三回単P会長会議では、「親の振り返りカード」を実際に取り組んだ学校の事例発表を行い、「親の振り返りカード」の活用のアイデアについてディスカッションをしました。

統計や感想をまとめて提出しなければならぬという強制ではなく、単Pでの工夫次第でどのような形にでも利用できる可能性がある「親の振り返りカード」というツールをどんどん有効活用していただき、「保護者力の向上」の手助けになることを願います。

最後に、一年間の活動にご協力いただきました委員メンバーの皆様、市P連活動を通じてご縁をいただきました方々へ感謝申し上げますとともに、皆様の益々のご活躍をご祈念申し上げます。本当にありがとうございました。



ユーモアを交えて講演をする
原田実能さん



PTA会長の真剣な眼差し



「親の振り返りカード」について
熱く語る福田智恵さん



「保護者力の向上」について検討中！

活動状況

- 5月27日 第1回委員会
- 6月18日 第2回委員会
- 10月19日 第3回委員会
- 11月 2日 第2回単P会長会議
- 11月10日 第4回委員会
- 12月 9日 第5回委員会
- 2月 8日 第6回委員会
- 2月22日 第3回単P会長会議

未来委員会報告

委員長 薄井 啓司



今年度、未来委員会は「出会い」と「一人では行けないところへ」をテーマに活動してまいりました。

主管事業は、十一月二十三日(水)開催の「日立市教育講演会」の運営でした。この講演会は、教育振興大会の第二部に位置づけられ、日立市教育委員会、日立市教育研究会、日立市P連、そして今年度から日立市幼稚園教育研究会が加わり、四団体が主催となって開催されました。

今年度の講師には、アニメ「サザエさん」のマスオさん役、「それいけ!アンパンマン」のジャムおじさん役で有名な、声優で俳優の増岡弘(ますおかひろし)氏をお招きして『サザエさんマスオの家庭教育考〜今を生きる〜』という演題でご講演いただき、また増岡弘氏、花岡亜矢さんによる『ツキをよぶ魔法のことば』の群読が行われました。

講演会当日は、四四〇名を超える参加者があり、会場はほぼ満席になりました。「人は自分で使った言葉に浸かって生きています。良い言葉を使うと良い生活になって、悪い言葉を使うと悪い生活になってしまいます」「言葉は人あげるものですから、プレゼントなのです」等、見えなくても大切なものについて考えるよい機会となりました。

市P連の活動を通して、未来委員会のメンバーはもちろんのこと、市内四〇校のPTA会長、母親委員との「出会い」があり、市P連スローガン「ひかりかがやき たくましく ちからあふれる ひたちっ子を育てるために 集おう 交流と協働のプラットホームへ」の下、多くの「交流」が得られ「協働」ができたことと思います。

最後に、日立市教育講演会の開催に当たり、日立市教育委員会、日立市教育研究会、日立市幼稚園教育研究会の皆様を始め、市P連スタッフ、そして未来委員会メンバーのご協力により、講演会を無事に終えることができましたこと心から感謝申し上げます。一年間、たいへんお世話になりました。



群読 心あたたまるお話でした



講演をする増岡弘さん

活動状況



活発な意見交換をする未来委員

- 5月26日 第1回委員会
 - 6月18日 第2回委員会
 - 9月22日 第3回委員会
 - 11月 8日 第4回委員会
 - 11月23日 教育講演会
 - 12月16日 第5回委員会
 - 2月16日 第6回委員会
- 第1回教育講演会運営委員会
第2回教育講演会運営委員会
第3回教育講演会運営委員会



情報委員会報告

委員長 小又 和洋



東日本大震災からもうすべ一年という節目を迎えますが、今もなお、復興に向けて子どもたちのために頑張っている学校やPTAがあります。その活動の姿を多くの皆様へ伝えたいという思いから、今年度は「子どもたちへの熱い思い」市P連から世界へ情報発信！」を委員会活動のテーマに掲げました。

始めに、昨年度リニューアルしたホームページの運用に重点を置いて活動に取り組みました。特にホームページの顔であるトップページについては、今まで以上にアクセスしていただくこと、原稿に添付されている写真を「スライドショー」で表示するなどの趣向を凝らしました。

また、単Pの情報交流の一環として、一部の単Pではありますが、PTA広報紙をホームページへ掲載するといった初めての試みにも挑戦しました。

その他、従来の「各校のPTA活動紹介」に加え、市P連の活動を広く知っていただくこと、単P会長会議や日立市教育講演会などの活動を随時ホームページに掲載するなど発信する情報の充実を図りました。

このような取り組みの結果、思いもよらず茨城県内の多くのPTA関係者から「市P連のホームページは良くできている」とのお褒めの言葉をいただき、委員長としてこれ以上の喜びはありませんでした。

次に「広報誌みらい」は、従来よりも発行ページ数を増やし、被災後の復興に向けた単P活動を「特集 PTAの震災復興の取り組み」と題して掲載することにしました。

発行に当たっては、時間をかけて話し合い、試行錯誤を重ねながら「一人でも多くの方に読んでもらいたい」という思いを込めて編集を行いました。その思いの中で完成したのが本誌です。ぜひ一読していただき、少しでも私たちの思いが伝われば幸いです。

本誌の発行をもって、今年度の委員会活動を無事終えることができました。これもひとえに「NPO法人コミュニティNET」株式会社JWAYの担当者の皆様や、市P連の皆様のご協力の賜物と思っています。厚

く御礼申し上げます。

また、一年間、委員長という大役を務めさせていただき、たくさんの方々との素晴らしい出会いと貴重な勉強の機会を得ることができましたことは、私にとって生涯の宝になりました。ありがとうございました。



今までにない広報誌を作ろう！



思案中の情報委員

活動状況

- 5月24日 第1回委員会
- 6月18日 第2回委員会
- 8月30日 第3回委員会
- 9月27日 第4回委員会
- 10月27日 第5回委員会
- 11月26日 第6回委員会
- 1月31日 第7回委員会
- 3月 1日 広報誌みらい38号 発行



日立市P連ホームページはお役立ち情報が満載！ぜひご覧ください！

“日立市P連”で検索ボタンをクリック！

URLはこちら ⇒ http://www.net1.jway.ne.jp/pta_info/

母親委員会報告

委員長 田所 英子



今年度、母親委員会は「〜想いをつなげよう！未来へ〜」をテーマに活動してきました。第二回委員会では県北女性ネットワーク委員会委員長の道口みゆきさんに『母親委員として想いをつなげよう』というテーマでPTA役員・母親委員の活動について、ご自身の経験からお話していただきました。

委員から「役員は経験せず敬遠してはいけないと思った」「人は人の思いでしか動かないという言葉が心に響いた」など前向きな声をたくさんいただきました。

また、第三回委員会では『想いをつなげよう〜私の考えるPTA〜』としてPTA事業についてグループディスカッションを行いました。他校との情報を共有することにより、驚きや気付くこと、活動のヒントになることもあったようでした。

第四回委員会は日立保健センターに

て日立市健康づくり推進課管理栄養士の先生をお迎えして食育講演会を開催しました。講話のあとは調理実習もあり、適正な食事の量や塩分の摂取量などを学びました。

毎日の献立を考えることに大変さを感じる時もありますが、家族の健康と幸せを願う心のもった食事をすることが、子どもたちのお腹や心を満たすのだと思うと献立を考えることも楽しくなりますね。

第五回委員会は間かせ屋。けいたろーさんの読み聞かせ講演会を開催しました。詳細は日立市P連ホームページに掲載されておりますので、ご覧ください。

これからも、母親委員会は子どもたちの健やかな成長と笑顔のために、母親としての想いを大切に活動していきます。一年間、ご協力を賜りありがとうございました。



優しく語りかける道口みゆきさん



栄養のバランスはとれているかな？



調理実習中！



話を聞き入る母親委員



盛り上がったグループディスカッション

活動状況

- 5月11日 第1回委員会
- 6月18日 第2回委員会
- 9月9日 委員会だより第18号 発行
- 10月25日 第3回委員会
- 12月7日 第4回委員会
- 1月17日 委員会だより第19号 発行
- 2月14日 第5回委員会

第59回日本PTA全国研究大会 ひろしま大会 参加報告

とき 平成二十三年八月二十六日(金) ～ 二十七日(土)

十王中学校PTA副会長 加藤 貴代美

今回のひろしま大会で、私は「平和教育」の研究テーマに興味があり、心を突き動かす何かを探すため、この分科会へ参加しました。

基調講演の講師・東ちづる氏は、テレビ出演中、一人の少年が中継で白血病の告白をしたことに衝撃を受け、骨髓バンクの支援を始めます。以後、「ドイツ国際平和村」での活動など多くのボランティア活動が続いています。ボランティアの語源の一説に火山を意味する「ボルケーノ」があるそうです。マグマが自然と吹き上がるように、奥底からふつふつと湧き上がる感情によって自ら動くところから、この説が気に入っているといます。PTA活動も、同じようなボランティア精神で、子どもたちの明るい未来を心から願いながら進められているのではないのでしょうか。

私は、東氏の経験を拝借し、命に向き合う機会を得たのです。「ひとはすべてにおいて対等。同じ命」この言葉が心に残ります。骨髓バンクの支援活動から病と闘う命。ドイツ国際平和村の

ボランティア活動から戦争で心身を傷つけられた命。そして、父親の臨終で尊く自分らしく終わっていく命。

平和とは「やすらかにやわらぐこと」と辞書にあります。生きるということとは、決して平和なだけではありません。感情は湧き上がり、いつも流動しているのです。しかし、そこには理解者がいて仲間がいて、家族がいるのです。相互感動で気持ちを分かち合う時間こそが心の平和につながるのではないのでしょうか。「自分を知り相手を知ること」、最後に笑顔が残る「そんな場所が平和というのかもしれない。笑顔あふれる場所を増やしていこう」という目標ができた分科会となりました。



広島グリーンアリーナの前で

第43回日本PTA関東ブロック研究大会 長野大会 参加報告

とき 平成二十三年十月二十一日(金) ～ 二十二日(土)

台原中学校PTA会長 鈴木 祐一

「信州につどいつらなる子育ての輪、心豊かでのびのびと育つために」という大会スローガンの下、関東各地から長野市に私たちと同じPTAにかかわる約二千人の方々が集まりました。

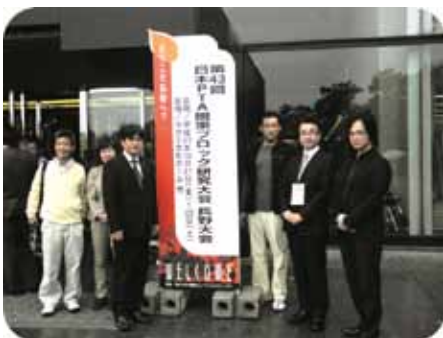
日立市P連からの参加者六名は、一日目はそれぞれの分科会に分かれて研究テーマについての実践報告を聞いた後、パネルディスカッションや会場にいるみなさんとの質疑応答を行いました。私たちも積極的に参加し、震災後の爪痕が今も残っている小中学校の現状報告や単P活動のPRをいたしました。

私の参加した第一分科会(主体的な参加意識を高める組織と運営のあり方について)では、学校の統廃合に伴い親たちは子どもたちに何ができるか(安全な通学路の確保等)や転校してきた子ども(外国人)の保護者に対してのPTA活動のアドバイス(ことばの壁を含む)等の研究課題と活動結果が報告されました。明治維新の指導者・吉田松陰のことばを借りると『親

思う、心に勝る親心」と、いつの世も子どもを思う親の気持ちは不変でなければならぬと強く感じました。

楽しみにしていた二日目の全体会は、俳優で気象予報士の石原良純氏の記念講演「石原家における親の役割」でしたが、当日の新幹線の車両事故の影響により石原氏の到着が遅れるトラブルに見舞われ、残念でしたが講演を聞けずに会場を後にしました。

小雨降る少し蒸し暑い天候でしたが、県北P連の方々和二日間に渡り有意義な交流や情報交換ができ、今後、単Pに展開しようと思います。



ホクト文化ホールの前で

特集 PTAの震災復興の取り組み

同じ校名が「つなぐ」絆

久慈小学校PTA会長 吉野 達也

久慈小学校では、同じ学校名で、また東日本大震災で同じように被災した岩手県久慈市立久慈小学校との交流活動に取り組みました。これは、私たちPTAも所属する久慈地区青少年育成会の発案によるものです。

まず、昨年九月に行われた当校の運動会にて、相手の小学校に向けて、子どもたちがエールを送る様子を撮影したビデオレターと、子どもたちを中心に横断幕や干羽鶴を作成。それらを携えて、十月に青少年育成会の会長、副会長が久慈市立久慈小学校を訪れました。

その後、十二月に久慈市立久慈小学校からもビデオレターが届き、遠く離れた被災地の仲間同士の気持ちと気持ちが絆となつて一つにつながりました。

震災という悲しい経験がきっかけではありませんでしたが、お互いの学校、子どもたち、そして地域の皆様が、復興に向けて前向きに進むことができるよう、交流を深めていきたいと考えています。



エールを送る子どもたち

学校の再建に向けて

水木小学校PTA会長 茂木 伸司

平成二十三年三月十一日の震災により校舎の被害が甚大で、本校舎の使用ができなくなりました。

しかし、市と学校の早い対応のおかげで、水木小学校、大沼小学校、泉丘中学校の三校に分かれてですが、すぐ児童が登校できるようになりました。

夏休み中には泉丘中学校にプレハブ校舎が建ち、二学期からは二校に分かれて児童は登校しています。大沼小学校に通っていた児童たちは、水木小学校からのバス送迎がなくなっていましたので、ちょっとがっかりしていました。

そんな元気な子どもたちに保護者も元気をもらっています。

写真①は、建て直しが決まった本校舎内で不要となった物、移動する物などを保護者と先生方で片付けしている様子です。写真②は、新しく建てたプレハブ校舎です。三学年が入れる二階建ての、思っていたより立派なプレハブ校舎です。

先生方はニヶ所の学校を行ったり来たり本当に大変そうですが、子どもたちに、明るく元気に接していただき、たいへん感謝しています。今後グラウンドの整備、卒業記念碑などの移動、校舎の解体を順次行っていく予定で、順調にいけば新校舎完成は二年後になります。

これからも復興に向け、地域の方々にご協力いただきながら、先生と保護者が協力して、子どもたちのために頑張っていきたいと思っています。



先生と保護者で片付け作業



プレハブ(2階建て)の仮校舎

伝統の石碑の復旧を行って

大沼小学校PTA会長 佐藤 信彦

この度の東日本大震災で被災された皆様には謹んでお見舞い申し上げます。

さて、私たち大沼小学校もこの度の震災の影響を受け、正門入口にあります校歌が刻まれている石碑が倒れてしまいました。この石碑は昭和五十六年三月に建てられ、雨の日も、風の日も、毎日正門で子どもたちを迎えてきたものです。

今年度は大沼小学校創立六〇周年の年を迎えます。PTAとしましては何とかせねばと思い、PTA基金を使用しまして夏休み中に倒れてしまった石碑を元通りに復旧しました。

伝統ある石碑は、今日も正門で元気な大沼小学校の子どもたちを迎えてくれます。

被災地への支援と地域防災

大久保小学校PTA会長 石川 欣央

はじめに、東日本大震災により被災された皆様に、心よりお見舞い申し上げます。被災地の一刻も早い復興をお祈りしております。

私たち大久保小学校父母と先生の会では、幸いにも会員に重大な被害等が



元の姿の戻った石碑(復旧後)



倒れた状態の石碑(復旧前)

無かったことを受け、まず被災地への支援に目を向けることから始めました。会員・地域の皆様からの声をもとに、子どもたちの上靴等の提供品を集め、五月に石巻市の全壊地域を中心に五ヶ所の避難所へ手渡しで支援品を届けました。

その後は、震災時の教訓を考え、メール緊急連絡網の整備の他、地域コミュニティとのつながりを一層強くする様、テレビ等でも有名な山村武彦氏をお招きして防災講演会を近隣地域の方もお交えて行いました。講演での「近助の精神」は心に残りました。

また、六年前より全児童に導入している防災頭巾は、震災時の大きなアイテムとして活躍いたしました。今後もできることをみんなで考えるPTAを作り上げていきたいと思っております。



石巻市・避難所の受付前で



石巻市・学校のプールの中に車が・・・

「なわとび」に真心をこめて

諏訪小学校PTA会長 久下谷 徳晃

諏訪小学校PTAは、昨年五月五日に宮城県南三陸町立伊里前小学校へ支援物資として「なわとび」を届けました。

今回「なわとび」を届けることになったきっかけは、会員の方が伊里前小学校の校長先生とお会いする機会があり、何かできないかと打診したところ「児童の自宅にあった「なわとび」はほとんど津波で流されてしまったので送っていただけるとありがたい」とのこと。その話を持ち帰った会員より、諏訪小学校PTAとして支援できないかとの提案をいただき、実施することになったものです。

実施に当たっては、各会員、児童に

協力を依頼し、約三五〇本の「なわとび」が集まり、直接届けることができました。

後日届いたお礼の手紙には「学校が再開され、早速「なわとび」を体育の時間や遊びに活用している。被災にあった子どもたちが学校は心休まる楽しい場所と心から感じられるような学校づくりに努めたい」と書かれてありました。

今回の取り組みを通し、私たちはボランティアについて考えるよい機会となりました。



真心がこもった「なわとび」



南三陸町立伊里前小学校

PTAと子どもたち

日立市教頭会 会長 木村 恵



現在、勤務校では「すべては子どもたちの笑顔のために」のスローガンを掲げ活動しているところですが、私が関わってきた中で、PTA活動が大きな役割を担っていることを実感したことがたくさんありました。

その一つとして、「家庭・学校・地域社会における子どもたちの生活や生活環境を調査検討し、その改善や充実を図るために学習をすすめる、関係団体と協力したり関係当局に働きかけたりなどとして、自らも実践する」活動です。

この時PTAは保護者の代表として大きな存在です。働きかけは、地域コミュニティや警察、建設省（当時）だったりもしました。

もう一つは、「会員相互に情報の交換や学習をする」場を確保していることです。都市化や核家族化及び地域における地縁のなつがりの希薄化等の中で、同じクラスの〇〇ちゃんのお母さ

んとか、隣のクラスの〇〇君のお父さんとして子どもたちに認知され、それをきっかけとしてお互いに知り合い、親同士から身近な地域単位での連携・協力へと広がっていました。

しかし、「共働きやシングルマザーが増えるPTA活動ができる母親が減っている一方、父親の参加が以前より増えている。しかし余裕を持って活動できる保護者が年々減っている」傾向がみられ、PTA活動を企画運営してきた方々が、次の方に引き継ぐ場面になると、引き受け手が少なく苦慮されている単会が多くなりました。

よりの多くの保護者に「会員自身の豊かな生活感覚を養うための学習の場」への参加を呼びかけること、それが「すべては子どもたちの笑顔のために」の活動へとつながることを感じています。

日立市教育振興大会発表報告

宮田小学校PTA副会長 高橋 利子

安藤 瑞穂

この度、茨城県PTA連絡協議会より本校PTAが栄えある特別表彰をいただきましたことに、心よりお礼申し上げます。

受賞に際しまして、昨年八月に行なわれた日立市教育振興大会での発表感



特別表彰を受賞する薄井会長(右)

想などを含めて、本校PTA及び地域の方々の活動の一端をご紹介いたします。

宮田小PTAが誇れることは、宮田学区コミュニティとの連携です。つまり子どもたちが毎日の生活で安心・安全・楽しさを享受できるのは、コミュニティの方々の見守りと活発な行事運営にあります。

そして、その運営行事の一つである「宮田元気っ子体験村」への協力を日立市教育振興大会で発表できましたことは感謝の想いでいっぱいです。

発表に当たっては、夏休みのほとんどを準備に費やしました。PTA発表にも関わらず、先生方は原稿作成、パソコン機器を使用している映像作成からリハーサル、本番での発表まで熱心にご協力くださいました。

平成二十三年を漢字の一字で表すと「絆」と言われています。私たちも

同様にこの「絆」を体験することができました。日頃お世話になっている「コミュニティの運営」を紹介できたこと。親身になって協力してくださった先生方のおかげで発表できたこと。そして仲間と互いに至らなさを補いあいながら、最高の「絆」を築き上げることができました。

この発表の機会を得て、私たちは地域、学校、PTAの三方の固い「絆」を再確認しました。そしてこのつながりに感謝し、晴れやかな笑顔で発表を終えることができました。



宮田小PTAの発表

編集後記

公私共にお忙しい中、原稿の執筆にご協力をいただいた皆様に厚くお礼を申し上げます。これからも、皆様に親しまれる「広報誌みらい」を目指して頑張っていきたいと思っております。
(情報委員会)